

(2) 公共交通乗降調査

① 調査目的

管内を運行している各種公共交通の利用状況の把握に向け、各種公共交通の利用実態調査を実施しました。

② 調査日

平日：令和3年7月13日（火）、16日（金）

休日：令和3年7月17日（土）

③ 調査実施方法

調査員の全便乗り込み調査

※利用者数はカウント調査

※利用実態はビンゴ式アンケート調査

④ 調査結果概要

運行事業者	路線名	調査日	便数	利用者数	1便あたり利用者数
JR 北海道	留萌本線	07/13(火)	14 便	180 人/日	12.9 人/便
		07/17(土)	14 便	157 人/日	11.2 人/便
	函館本線	07/13(火)	17 便	294 人/日	17.3 人/便
		07/17(土)	17 便	219 人/日	12.9 人/便
空知中央バス	沼田線	07/13(火)	10 便	48 人/日	4.8 人/便
		07/17(土)	8 便	32 人/日	4.0 人/便
	北竜線	07/13(火)	10 便	53 人/日	5.3 人/便
		07/17(土)	9 便	30 人/日	3.3 人/便
	深滝線	07/13(火)	25 便	295 人/日	11.8 人/便
		07/17(土)	22 便	159 人/日	7.2 人/便
北海道中央バス	高速るもい号 (深川経由)	07/16(金)	7 便	71 人/日	10.1 人/便
		07/17(土)	7 便	62 人/日	8.9 人/便
	高速るもい号 (滝川経由)	07/16(金)	7 便	109 人/日	15.6 人/便
		07/17(土)	7 便	75 人/日	10.7 人/便
	滝川北竜線	07/13(火)	3 便	38 人/日	12.7 人/便
		07/17(土)	2 便	9 人/日	4.5 人/便
沿岸バス	留萌旭川線	07/13(火)	16 便	103 人/日	6.4 人/便
		07/17(土)	16 便	137 人/日	8.6 人/便
JR 北海道	函館線 接続バス	07/13(火)	1 便	8 人/日	8.0 人/便
	下校バス	07/16(金)	1 便	7 人/日	7.0 人/便

(3) 北空知4町通学アンケート調査

① 調査の目的

4町から深川・滝川の公立高等学校へ通学している生徒に対して、通学時の移動実態やニーズの調査を行い、今後の公共交通の検討の基礎資料とします。

② 調査期間

令和3年9月28日（木）～10月22日（金）

③ 調査対象

妹背牛町、秩父別町、北竜町及び沼田町から滝川高等学校、滝川工業高等学校、深川東高等学校、深川西高等学校、滝川西高等学校に通学している生徒

④ 調査方法

各高校の教諭を通じた配布・回収

⑤ アンケート調査の配布及び回収状況

配布数：101票

回収数：62票（回収61.3%）

⑥ 調査結果概要

次回会議までに、
北空知4町通学アンケート調査資料から抜粋して整理

3-4 現状・問題点及び課題の整理

現況調査及び各種調査結果から得られた現状・問題点及び課題を以下に整理します。

- (1) 地域及び公共交通の現状と課題
- (2) 各種調査結果から見える公共交通の現状・ニーズと課題

次回会議までに、現状・問題点及び課題の整理を実施

第4章 北空知4町地域公共交通計画の基本方針

4-1 基本方針

次回会議までに、計画の基本方針及び考え方をの整理を実施

【基本方針の考え方】

4-2 施策の方向性

第3章で整理した本町における地域及び公共交通の課題解決に向けた施策を展開していくための方向性を交通モードごとに以下の内容で設定します。

J	R	
高 速 バ ス 路 線		次回会議までに、 各交通モードの役割等を記載
地 域 間 幹 線 系 統 (国 庫 補 助 対 象 路 線)		
北 海 道 生 活 交 通 路 線		
そ の 他 交 通		

4-3 方向性に基づく施策体系

●●。

次回会議までに、
施策内容の一覧を体系化して整理

4-4 北空知4町地域公共交通網の将来像

北空知4町地域公共交通網における将来像を地域幹線系統や地域内フィーダー交通等の観点から路線ごとの役割を明確化した将来像を以下に整理します。

次回会議までに、
施策との連動及び路線別の補助状況を明確化した将来像を作成

第5章 目標の達成に向けた施策内容の整理

本章では、北空知4町地域公共交通計画の目標達成に向けて実施する施策の具体的な内容等を整理します。

5-1 施策内容の整理

(1) JR

① 留萌本線への対応

●●。

目的・概要	次回会議までに、 検討し得る方向性資料に基づいた各交通モード・ 路線別における施策内容の考え方を整理 (できる限り運行内容を具体化したものを記載)
実施主体	
② 函館本線	
●●。	
目的・概要	・JR北海道
実施主体	

(2) 高速バス路線

(3) 地域間幹線系統（国庫補助対象路線）

① 留萌旭川線

●●。

目的・概要	・留萌十字街から碧水（北竜）・秩父別役場前・深川市内を經由して、旭川駅まで結ぶ交通路線である。 ・65歳以上の利用が多く、居住地域で賄えない深川・旭川方面への通院や買い物などでの利用目的で重要な交通路線である。 ・●● ・地域間幹線系統確保維持費補助金を活用し、路線維持を図る。
実施主体	・沿岸バス、道北バス

(4) 北海道生活交通路線

(5) その他交通

5-2 施策の実施スケジュール

施策	実施主体	(2022) 令和4年度	(2023) 令和5年度	(2024) 令和6年度	(2025) 令和7年度	(2026) 令和8年度
次回会議までに、 施策内容ごとのスケジュール（案）を整理						

第6章 施策の持続的な実施に向けた目標値設定

本章では、施策の持続的な実施に向けた評価指標及び目標値を整理するとともに、目標値の測定方法や評価のスケジュールを整理します。

6-1 評価指標及び数値目標

本計画及び施策の推進状況を確認するため、以下の目標値を設定し、計画及び施策の進捗確認を行います。

表 6-1 評価指標及び数値目標

評価指標	単位	現況値		目標値			
		令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)
住民等の公共交通の利用者数							
公共交通の収支（収支率・収支差）							
公共交通への公的資金投入額							
次回会議までに、 上記の標準指標3種の具体化とともに、 推奨指標及び選択指標の検討を実施							

6-2 数値目標の測定方法

数値目標の評価に必要なデータの測定方法を以下に整理します。

表 6-2 数値目標の測定方法

データ測定方法	調査手法概要等
住民等の公共交通の利用者数	
公共交通の収支（収支率・収支差）	
公共交通への公的資金投入額	
評価指標の内容に応じて具体化	

6-3 数値目標の評価スケジュール

数値目標の評価スケジュールを以下に整理します。

表 6-3 数値目標の測定方法

数 値 目 標	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)
住民等の公共交通の利用者数					
公共交通の収支（収支率・収支差）					
公共交通への公的資金投入額					
評価指標の内容に応じて具体化					

第7章 計画の推進体制

本章では、本計画を運用していくにあたっての計画進捗状況の評価体制やPDCAサイクルによる評価・検証方法、今後計画期間内における協議会の想定実施スケジュールを整理します。

7-1 計画推進状況の評価推進体制、評価、検証

施策を継続的に展開していくにあたっては、6-1で示した評価指標及び数値目標に基づき、定期的なモニタリングを通じて、施策の実施効果や変化する社会情勢との適合性等を検証・評価し、適宜・適切に計画の見直しを行うことが重要です。

これら目標の評価にあたっては、本計画の策定で協議を行ってきた、「北空知4町地域公共交通活性化協議会」で行うこととし、7-2に示すPDCAサイクルにより評価・検証を行います。また、継続的に評価・検証を行うため、7-3に示す今後の協議会開催スケジュールに基づき、実施します。

加えて、本計画の目標を実現するにあたっては、北空知4町や交通事業者のみならず、各種団体などを含めた地域住民の理解と参加、協力が不可欠であり、地域の一人一人が主体的に考えて取り組むことが重要です。そのため、各関係者の役割を明確化にし、それぞれが主体的に実施することで、北空知4町における持続可能な公共交通網の構築を行います。

表 7-1 計画推進状況の評価体制（北空知4町地域公共交通活性化協議会委員名簿）

区分	組織名
<p>次回会議までに、 評価体制を明確化（部会委員を含めるかは要検討）</p>	

表 7-2 計画の推進に向けた各関係者の役割及びその内容

関係者	役割	内容
<p>次回会議までに、 住民、利用者・交通事業者・4町の役割及び内容の具体化</p>		

7-2 評価・検証に向けたPDCAサイクルの構築

計画の推進にあたっては、計画期間（5年間）における事業実施状況や目標達成状況の評価・検証を行う「大きなPDCAサイクル」と、毎年のモニタリングを中心とした「小さなPDCAサイクル」を組み合わせることで、計画の達成に向けた継続的な改善を推進します。

「小さなPDCAサイクル」では、施策の目標値に対する実績の評価・検証を基に、事業の実施内容の改善・見直しを毎年行い、「大きなPDCAサイクル」では、施策に係る評価・検証を基に、必要に応じて計画全体の見直しを行います。

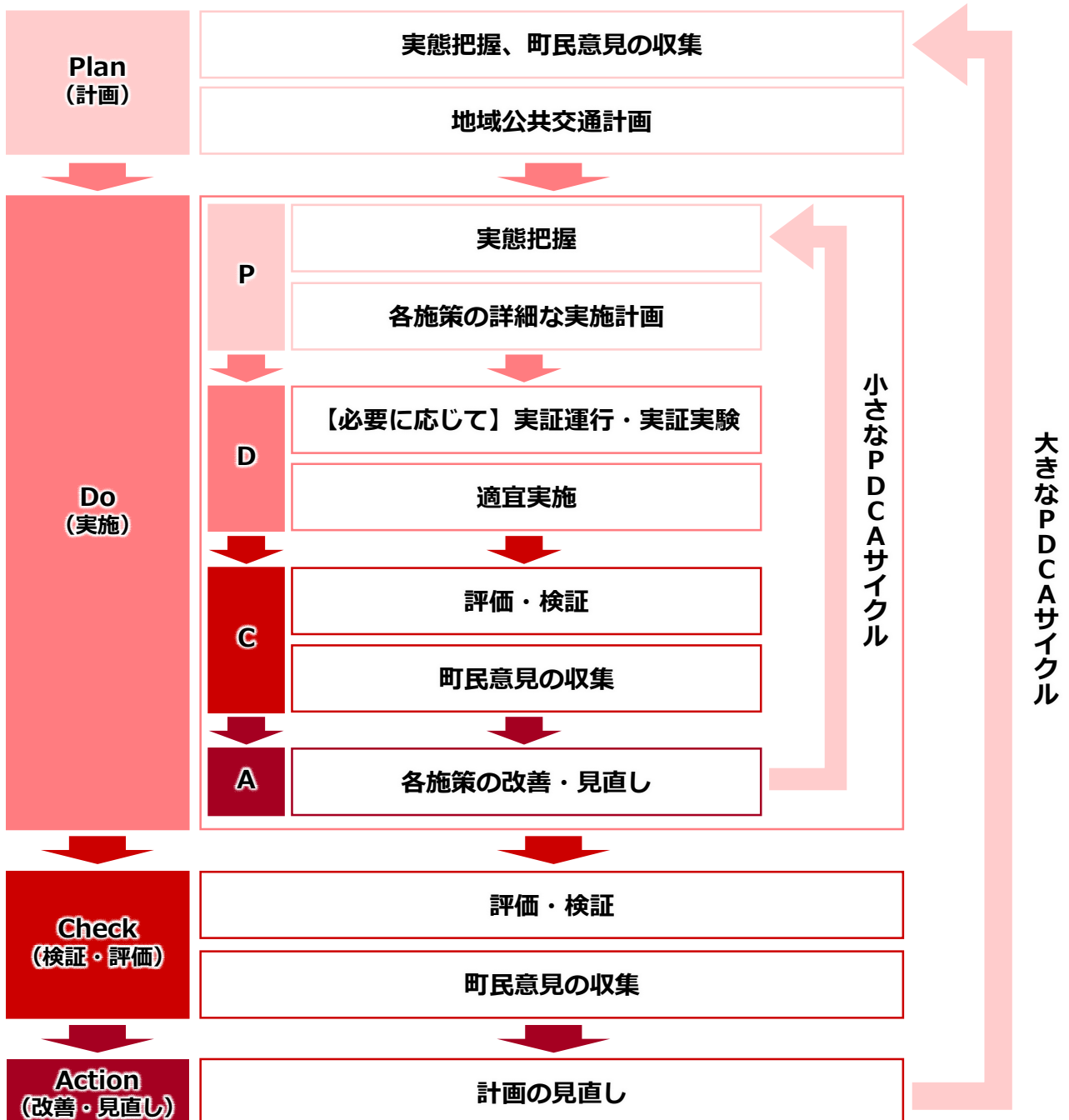


図 7-1 PDCAサイクルによる評価・検証

7-3 今後の協議会の開催スケジュール（案）

適切な事業実施及び計画推進に向けた継続的な PDCA サイクルを行うため、以下のスケジュールで「北空知4町地域公共交通活性化協議会」を開催します。

なお、毎年の事業の評価・検証結果により、事業の改善や見直しが必要になった場合は、以下のスケジュールとは別に協議会を開催し協議を行うなど、柔軟な対応を行います。

次回会議までに、具体化を実施